

● 授業科目の
内容紹介

音楽療法士に関する科目

授 業 科 目 名	単 位 数		学 科	年 次	担 当 教 員
	必修	選択			
音 楽 療 法 各 論 IV (総合 I)	4		音	1	宍戸幽香里

山本久美子

I 主題と到達目標

この授業では、音楽療法の対象者の障害の種類と障害レベルについての基礎的な知識を学び、音楽療法の方法をより専門的に理解することを目標とする。

II 授業の概要と計画

この授業では、障害の種類に応じた音楽療法の方法を実技を主体とする。

項 目	内 容
1. 障害についての考え方	障害者の日本での現状について
2. 発達障害児について	乳幼児
3. 発達障害児について	学齢児
4. 発達障害者について	成人
5. 重症心身障害児について	乳幼児から成人
6. 高齢者について	認知症
6. 高齢者の神経難病について	パーキンソン症他
7. 健康な高齢者について	介護予防について
8. 精神科領域について	集団歌唱
9. その他障害全般について	講義
10. 観察方法	記録の取り方
11. 観察方法	記録の取り方
12. 観察方法	記録の取り方
13~30 ロールプレイ	各対象に応じた実技

III 使用テキスト・教材等

資料配布

IV 評価方法

実技テスト

受講状況：出席、授業中の態度、発表、課題の提出

V その他（参考文献、履修上の注意事項等）

指示された課題は怠らないように

授 業 科 目 名	単 位 数		学科	年次	担 当 教 員
	必修	選択			
音 楽 科 教 育 研 究	4		音	1	山 崎 正

I 主題と到達目標

この授業は中学校教諭一種「音楽」免許の必修科目である。

本科「音楽科教育法」で学んだ基礎知識を踏まえ、更に指導や評価の能力を高めることを目指す。また、授業内において教材を自ら開発するという実践を経験し、教材をより具体的に捉えられるようにするとともに、人間と音楽との関わりの重要性を認識していきたい。

II 授業の概要と計画

授業の前半期は講義を中心とし、。意見交換も行う。

後半期は個人個人のアイデアを出し合いながらグループ作業によって教材開発を行い、これら作成した教材を用いて授業を組み立て模擬授業も行う。また、今後の音楽教育の展望についても話し合う。

- 1～ 2 音楽教育の歴史と現状
- 3～ 5 社会環境と音楽環境の実情
- 6～ 7 音楽の導入法について
- 8～ 9 諸外国の音楽教育紹介
- 10～12 教材の概念と教材研究
- 13～16 教材開発Ⅰ（リズムを中心とした教材）
- 17～20 教材開発Ⅱ（自然音・環境音の音楽への導入の試み）
- 21～22 教材開発Ⅲ（自然音・環境音と音楽との合体発表）
- 23～24 コンピュータやモバイルの活用法の概要
- 25～27 コンピュータ教材の組み立て
- 28～29 コンピュータ教材の作成
- 30 教材開発レポート提出及びコンピュータ教材の提出

III 使用テキスト・教材等

中等科音楽教育法（音楽之友社）／音楽のおくりもの1，2・3上下、中学器楽（教育出版）／中学の音楽1，2・3上下、中学の器楽（教育芸術社）／音楽教育の実践（教育芸術社）

IV 評価方法

1. 授業内でのグループ活動評価
2. 教材開発した教材の提出物評価
3. コンピュータ教材の個人評価
4. 出席状況

V その他（参考文献、履修上の注意事項等）

この授業の後半はグループ作業となるため、欠席することによってグループメンバーへの負担が生じないように特に配慮すること。

履修者が5名以下の場合は個人課題を課すので、グループ作業は行わない。

授 業 科 目 名	単 位 数		学科	年次	担 当 教 員
	必修	選択			
社 会 福 祉 学 特 論	2		音	1	加藤光良

I 主題と到達目標

本科で学んだ社会福祉を基に、社会福祉及び幼児教育の枠組みについて、制度上の問題や課題について掘り下げていく。

特に、近年社会福祉制度が大きく変化しているが、これからの方向と保育者として何をなすべきかを考えていく。

II 授業の概要と計画

措置制度から利用(契約)制度へと移行する流れの中で、保育所、幼稚園、介護保険等の枠組みや課題についてグループで調べ、ディスカッション等していく。

グループや個々のまとめやレポートでまとめていく。

	項 目	内 容
1～2	社会福祉の動向	社会福祉基礎構造改革とその後の動向を理解する
3～6	福祉サービスの仕組みと内容	措置制度、利用制度、介護保険制度について現状・課題を調べる
7～8	各制度の関連性	各制度の関連性や相違点について討議する
9～10	社会福祉の財源	国及び地方公共団体の財源と利用者負担金について考える
11～12	幼保一元化の意義と課題	認定こども園についての考察
13～14	社会福祉の展望	これからの社会福祉の方向と従事者の役割を考える
15.	まとめ	

定期試験

III 使用テキスト・教材等

本科で使用した社会福祉の教科書及び保育福祉小六法、プリント

IV 評価方法

出席状況、受講態度、発表、レポートなどを総合的に評価する。

V その他（参考文献、履修上の注意事項等）

制度等の現状や課題等については現場での聞き取り等も行う。

授 業 科 目 名	単 位 数		学科	年次	担 当 教 員
	必修	選択			
臨 床 心 理 学 特 論		2	音	1	里村澄子

I 主題と到達目標

臨床心理の理論を学ぶとともに、自己・他者を観察しつつ、人間の心のありようを探る。それらをもとに、他者への心理援助の方法を模索する。

II 授業の概要と計画

心理臨床の理解を深めるために、自分の目で状況を観察する力を養いたい。他者とかかわる意味を考えながら、相互のやりとりを通して自己・他者理解に努めるとともに、心理援助のあり方を探る。他者理解は自分を深く見つめることに通じることを感じとってほしい。

項 目	内 容
1. 臨床心理学の目的と課題	人と向きあう姿勢について
2. 臨床心理学の対象と研究方法	科学的探究と異なる心理臨床の理解の仕方と接近方法
3. 発達課題と心理臨床	発達の節目と発達課題
4. 心理臨床を考える	ロジャーズの人間観 共感的理解、説明的理解
5. 環境とパーソナリティ	精神分析的アプローチの紹介
6. パーソナリティと気質	類型論（ユング、クレッチマー）
7. 人間観と治療的接近（1）	① 認知行動主義の理論と応用
8. （2）	① 深層意識の存在と理解
9. 適応についての概観（1）	適応機制と不適応
10. 概観（2）	内的・外的不適応と適応障害
11. 事例検討	事例から‘かかわる’意味について考える
12. 事例検討	事例を通して障害児の理解と心理援助について考える
13. 事例検討	目標としての現実適応について考える
14. 事例の持つ意味について考える	成長を促す‘悩み’について
15. まとめ	学んだことを総括する
定期試験	レポート提出

III 使用テキスト・教材等

『臨床心理学』保育出版社 小林芳郎編者

IV 評価方法

授業参加の姿勢と授業時の発表、レポート提出による総合的評価

V その他（参考文献、履修上の注意事項等）

授業参加によって成長・発達が促されるよう各自努めてほしい。

授 業 科 目 名	単 位 数		学 科	年 次	担 当 教 員
	必修	選択			
音 楽 療 法 体 験 実 習 II	(1)		音	1	宍戸幽香里

I 主題と到達目標

施設の他職種との連携を自覚して、音楽療法の専門性は何かを学ぶ。

II 授業の概要と計画

施設の特徴と対象者に応じたプログラムの作成と、対象者への関わりを実技を交えて講義する。

項 目	内 容
1～2. 実習事前指導	施設の概要と対象者についての講義、実技他職種の支援を受け、対象者について学ぶ。実習で課題となった事、今後活かせる事
3～14 現場実習	
15. 反省会	

III 使用テキスト・教材等

IV 評価方法

実習態度、施設側からの評価

V その他（参考文献、履修上の注意事項等）

事前学習で注意されたことを遵守する

